



ナバーゴン村で食糧を配布する村防災委員会 (ミャンマー)
Food distribution in Nabekone Village (Myanmar)

要約

- **ミャンマー**では、N連(日本NGO連携無償資金協力事業)の第3年次が開始しました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、助け合いが展開されています。
- **フィリピン**では、JICA草の根技術協力事業の成果物を事業パートナーに配布しました。
- **バングラデシュ**では研修を受けた若者が防災意識啓発キャンペーンをおこないました。また、N連事業も新たに開始しました。
- **日本**では、丹波市のスタディツアー事業の振り返りをしました。また、バングラデシュ事業担当として新しい職員が入職しました。

Summary

- The **Myanmar** project supported by Ministry of Foreign Affairs of Government of Japan (3rd year) has started. There is much mutual help going on amid COVID-19.
- In the **Philippines**, one of the project outputs was distributed to partners in Cebu Province.
- Trained youth initiated an awareness-raising campaign in fire-prone residential areas in **Bangladesh**. A new project supported by Ministry of Foreign Affairs kick started for school-based community DRR.
- In **Japan**, discussion was held with people of Tamba about the “study tour” initiative taken in FY2019. A new member joined SEEDS Asia for the Bangladesh project.

目次 Contents

ミャンマー	2
フィリピン	4
バングラデシュ	5
日本	7
Myanmar	8
Philippines	10
Bangladesh	11
Japan	13

【認定】特定非営利活動法人SEEDS Asia

658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307

TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413

EMAIL rep@seedsasia.org

WEBSITE www.seedsasia.org

FACEBOOK www.facebook.com/SEEDSASIA/

1-7-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe 658-0072



ミャンマー

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業（第3年次）」の開始

ミャンマーはサイクロン、地震、洪水、土砂災害、津波といった多様な災害リスクを抱えた国です。これらの災害によってもたらされる被害は、経済だけでなく社会や環境にまで及び、同国の発展に大きな影響を与えています。

現在、SEEDS Asiaのミャンマーでの活動は、教育分野・学校における災害に対する備えの強化に焦点を当てています。外務省日本NGO連携無償資金協力を通じた「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業」は3月1日に第3年次を開始し、洪水常襲地であるヒンタダ地区のワーボチャーボ村を含む13の村と学校における、災害時の教育継続と村の住民の安全確保を目指します。本事業では、包括的学校の安全枠組の3つの柱である①安全な学校施設、②学校防災管理体制、③防災教育に基づく活動を通じて、防災の担い手育成、学校兼シェルターの建設、そして災害管理体制の強化を展開します。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、事業のキックオフワークショップは開催せず、最小限の参加者によるミーティングに留めましたが、現地でする限りの活動を進めます。



キックオフミーティングの様子



学校兼シェルター建設に向けた準備

ナバーゴン村での助け合い

4月22日、第2年次事業の対象地だったナバーゴン村から、収入が激減した世帯への食糧の提供を村内でおこなったという報告がありました。困っている人がいたら、まずは地域で助け合う、そんな連帯の価値を改めて感じます。



ナバーゴン村の食糧配布の様子

サイクロン・ナルギスから12年

ミャンマーを襲った巨大サイクロン・ナルギスから5月2日で12年が経ちます。吹き寄せ効果による3mもの高潮が低湿地帯に暮らす人々を飲み込み、8万4,537名死亡、5万3,836名が行方不明となりました(情報: Hazard profile of Myanmar, 2008より)。被災地では、「サイクロンがどのようなものか分からなかった」、「何をしたらいいのか分からないまま避難が遅れた」等、知識があれば助かるはずの命が失われたことを、ご遺族や被災された方々は語りました。

気象水門局からの情報は当時数少なかった情報源の1つであるラジオから流れていましたが進路予想や大きさの視覚的伝達には限界がありました。さらには気圧、雨量、風速の計測数値や高潮の高さを数字で伝えても、サイクロンを経験したことのない住民にとってそのインパクトを想像することは容易ではありませんでした。

SEEDS Asiaは、皆様のご支援・ご協力により防災教育を様々な形で展開して参りました。2017年からは防災教育の一環として、ミャンマー初の学校における簡易気象観測機器の設置を始め、昨年は6基を追加設置しました。ナルギスの被災地であるラプタ地区の第二高等学校の教員ウー・ミンテイン先生は、1日3回の定期観測を継続し、校内と地域の防災リーダーに日々情報共有しています。ウー・ミンテイン先生は、「ラプタ地区ではサイクロン・ナルギスで約8万人の人が犠牲になりました。例え同じようなサイクロンが来ても同じ被害を繰り返さないために、自分ができることは地域や子どもがニュースで流れる天気予報をちゃんと理解できるよう、日々の観測情報と共に教訓を伝えていくことだと思っています」と、話していました。

今年には新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、例年のメモリアル式典は自粛となりました。しかし、いざという時の「命を守る行動」を実践するためには、日常からの情報収集によって信頼すべき情報源を見分けることと、正しい理解への努力が欠かせません。ナルギスの一つの教訓は、「withコロナ時代」にも当てはまる大切な教訓であると言えます。

最後に改めて、サイクロン・ナルギスで亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り致しますと共に、今日の日を思い出す全ての方々に安寧が共にありますように。



Picture 1

Picture 2

生徒と共に気象観測をおこなう

教師

休校の日も続けられている日々の

気象観測記録

外務省発行2019年度ODA白書に
コラムを掲載頂きました！

「防災の主流化と防災対策・災害復旧対応、および持続可能な都市の実現」の箇所に「ミャンマー：ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業」をご紹介します (p. 77)。

ODA白書全文はこちらから→





フィリピン

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

JICA草の根技術協力事業

「学校防災管理チーム運営指針」の配布

3月の第1週から第2週にかけて、JICA草の根技術協力事業の成果物である「学校防災管理チーム運営指針」を、事業パートナー（セブ州の教育省関係者：教育事務所や学校）に配布しました。

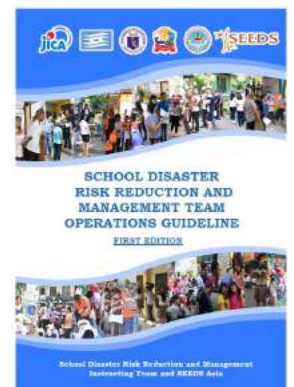
この「運営指針」は、法律で学校ごとに結成することが義務付けられている「学校防災管理チーム」の活動を細分化し、「チームを作ったはいいけど、何から始めたらいいの?」という学校の疑問に答えるために色々な提案をする冊子です。事業でパイロット校として指定されていなかった学校でも防災管理が進むことを願いながら、学校を指導する立場の「学校防災管理指導チーム」との協議を重ね、製作に約2年かけました。「第1弾」という扱いなので、現地教育省の手で改善されることが期待されます。

本来は事業の集大成である「最終国レベルカンファレンス」というイベントにて配布する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策としてイベントが延期となったため、セブ州内各地を回って手渡しをしました。フィリピンの学校が災害に対する備えを進められるお手伝いができますように！



運営指針配布先との記念撮影

「学校防災管理チーム運営指針」は、事前に情報を登録いただくことでSEEDS Asiaのウェブサイト上でのダウンロードが可能です（現在英語版のみ）。



運営指針の表紙



バングラデシュ

災害に対して脆弱な地域の若者へのエンパワメントを通じて、安全なまちづくりを目指します。

三井住友銀行ボランティア基金

若者向け防災研修

地域に貢献できる資源としての若者の育成と、彼らを通じた地域の防災意識啓発活動の推進を目指している本事業では、2月に実施した第1回と第2回に続き、3月6日と7日に第3回、第4回の若者向け防災研修を実施しました。火災が頻発しているコライルスラムと、隣接するモハカリ地区から選ばれた18歳から35歳の参加者26名は、引き続き真剣かつ活発に研修に参加しました。

研修第3回では、コライルとモハカリで防災まちあるきを実施しました。SEEDS Asiaの先行事業で防災活動を始めたモハカリコミュニティとモニプリパラコミュニティのリーダーが、本事業ではまちあるきのファシリテーターとして駆けつけてくれました。参加者は、まちあるきの目的とノウハウを学び、火事を起こすリスクはどこにあるか、細い道がどうして危険なのか、火事が起きたら住民はどこに逃げたらいいのか、などを話し合いながら地域内を歩きました。

最終回となる第4回目は、災害対応と応急処置、家庭での備えを学ぶとともに、コミュニティ防災の意義を再度話し合いました。研修後半には北ダッカ市の防災局長が激励に訪れ、地域での防災や若者の力が重要であると参加者に語ってくれました。

防災意識啓発キャンペーン

全4回の研修を終えた26人の若者は、研修で学んだ防災知識を地域の住民に伝えるため、5人1組のグループをつくり、グループごとに立てた計画のもと家庭訪問を通じた防災意識啓発キャンペーンを実施しました。訪問時には、火事を起こさないために各家庭およびコミュニティでの防火行動が大変重要であること、日常の中で気を付けるべき事柄、火災が起きてしまった場合の対処法、消防署への連絡方法、また、消火器の役割と使い方、購入可能な場所と価格、などが伝えられました。出かける前は緊張した面持ちの参加者でしたが、キャンペーン終了後のミーティングでは、多くの家庭に快く迎え入れてもらったこと、真剣に話を聞いてもらえたこと、感謝されたこと、などの経験を嬉しそうに、また誇らしげに話してくれました。今後も、地域の若手防災リーダーとして活躍してくれることを期待します。



まちあるきの様子



キャンペーンの家庭訪問



バングラデシュ

学校を拠点としたコミュニティの防災力向上と全市民的な意識啓発を目指します。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

学校防災に特化した新事業始動

バングラデシュは、長い歴史の中で地理的特徴からサイクロンや高潮など自然災害の影響を受けてきました。さらに近年の急激な人口増加と都市化により都市型災害のリスクが高まっています。北ダッカ市は災害に強いまちを作るための取り組みを進めているものの、市民が子どもの頃から防災について学ぶ機会がないため、災害に対応する能力が社会全体で弱く、また住民が使用できる基礎的防災インフラが不足していることに加えて、市民が防災について情報や知識を得る機会がなく、その行動が災害の影響を悪化させることもあります。このことから、主にソフト面で自助・共助による災害へのレジリエンスを高めることが喫緊の課題となっています。

SEEDS Asiaは、先行事業としてJICAの委託を受け、2016年4月から3年間、北ダッカ市をカウンターパートとしたコミュニティ防災支援事業を実施しました。本事業は外務省の日本NGO連携無償資金協力を通じ、先行事業では対象にならなかった「学校防災」に取り組み、学校における防災教育のモデルづくり、地域の防災拠点として学校に基礎的防災インフラの導入、そして全市民的な災害に対する意識向上を図る啓発活動を実施します。第1年次である本事業は2020年3月からスタートし、防災教育のモデルと校内の防災インフラを整備する対象として北ダッカ市のモデルアカデミー校をパートナーとします。また、2年次に市民の意識啓発に用いる予定のメディアツールの準備も進めます。



モデルアカデミー校の授業や建物

北ダッカ市や地域防災コミュニティを訪問

本事業でも北ダッカ市をカウンターパートとすることから、事業開始後、3月16日に同市土木部気候変動・災害管理部門の主任技術者であるタリック氏を表敬訪問し、事業の概要及び活動内容について協議しました。同氏は先述の先行事業の時からSEEDS Asiaの取り組みにとっても熱心に関わっていただき、「学校防災のためにできる限り協力する」と頼もしいお言葉を頂戴しました。また、3月18日には、先行事業で組織化と能力強化トレーニングを受け、地域に根差した活動を展開している地域防災コミュニティに赴き、今回の事業での教員研修の1つであるまちあるきへのリソースパーソンとしての参画の協力を要請しました。対象となるモデルアカデミー校の校長先生とも密に連絡を取り、トレーニングを受ける先生の選抜やどのような防災授業を展開していくのかを含め、協議を進めています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、まだキックオフワークショップを含めた各研修は開催できていませんが、今できることを着々と進めています。今後ともご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。



日本

兵庫県丹波市の豪雨災害の教訓を地域資源として位置づけ、市内外の交流を促し地域を元気づける活動を目指します。

ひょうごボランティア基金、丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業

丹波市スタディツアーの振り返り

3月18日、SEEDS Asiaは丹波市を訪問し、市島町の住民の方々と、「スタディツアー」として2019年度に実施した活動を振り返りました。2019年度は、子ども連れの家族を対象にした受入を開始し、市島町の人々の「普通の暮らし」として営まれている田植えや森林管理などを、都市部の人々の「新しい体験」として提供できることが証明されました。この取り組みを振り返り、今後活動をより発展させることで、より多くの参加者に市島町のよさを理解してもらおう、と決意を新たにしました。

これらの活動は、ひょうごボランティアプラザによる「ひょうごボランティア基金」の助成を受け、報告書としてまとめられました。また、丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業の補助で、丹波市の住民の手でスタディツアーの企画、広報と連絡調整を進められるよう、引き継ぎの手引きも作成しました。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、市島町の地域の方々もSEEDS Asiaも2020年度のスタディツアーの受入に明確な見通しを持つに至っていません。しかし、これまでのスタディツアーで築いてきた都市部と農村部のつながり、そして世代を超えたつながりを継続できるよう、取り組んで参ります。



スタディツアーの「人づくり」に関する報告書



スタディツアー引き継ぎの手引き



本部

国内の災害復興支援や、国内の講師派遣をしています。

新スタッフ紹介（Bangladesh Office）

皆様初めまして。3月よりSEEDS Asiaに入職し、Bangladesh事業を担当することになりました後藤大祐（ごとうだいすけ）と申します。

以前は茨城県の消防署で約6年間勤め、主にレスキュー隊として救助をメインに活動しておりました。2015年9月に起きました関東東北豪雨災害では、私の所属していた消防本部が被災しました。実際に災害を経験し、現場活動をしたからこそ伝えられる想いがあります。阪神・淡路大震災や東日本大震災も含め、災害を決して忘れてはいけません。災害の記憶や被災者の想いを風化させないためにも伝えていくべきだと思っています。開発途上国の人々に防災の意識を根付かせ、失うはずのなかった命の喪失を減らしたいです。元々からやりたかった消防・防災関係で国際協力に携われること、そして防災に特化したNGOのSEEDS Asiaに入職できることが出来、大変嬉しく思っております。

今回携わる「北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力の向上」に少しでも貢献できるよう精一杯務めて参ります。何卒よろしくごお願い申し上げます。





Myanmar Promoting comprehensive disaster risk reduction (DRR) from construction of safe school-cum-shelter to enhanced community disaster preparedness

Funded by Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

Kick-off for the third year of the project “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township”

Myanmar is exposed to a range of disasters, including cyclones, earthquakes, floods, landslides, and tsunamis. These disasters extract a high economic, social and environmental cost for Myanmar, which is still a developing economy.

SEEDS Asia’s work in Myanmar has focused on disaster preparedness, particularly on education and school safety. Our project in the country, “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township” now in its third year, is funded by Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan. The current phase of project activities, which commenced on 1st March, will target 13 villages including Wa Boet Chin Boet Village in a flood-prone area in Hinthada Township to ensure their continued education in disaster, and to secure the safety of the residents. Activities will apply the Comprehensive School Safety Framework aiming for (1) safe learning facilities (2) school disaster management (3) risk reduction and resilience education, and include capacity building of DRR practitioners, construction of a school-cum-shelter, and strengthening the disaster management system.

Due to the ongoing and widespread risks of COVID-19, the project’s initial kick-off workshop was replaced by a smaller meeting with minimum attendees.



Kick-off meeting



Preparing for the construction of a school-cum-shelter

Mutual help in action in Nabekone village

On 22nd of April, news came in from Nabekone village, which was SEEDS Asia's partner village in the second year project in Hinthada Township that the village disaster management committee has called for help from within and outside the village to provide food to those who had financial difficulties due to the COVID-19 crisis.

This reminds us all that extending a helping hand within the neighborhood when someone is in trouble, is a fundamental value that will eventually save many.



Village disaster management committee handing food supplies

12th anniversary of Cyclone Nargis

12 years have passed since the Cyclone Nargis hit parts of Myanmar. The water level at that time rose three meters as the severe wind blew up the ocean's surface, swallowing people in the low-lying areas. This resulted in 84,537 deaths and 53,836 persons were missing (source: Hazard profile of Myanmar, 2008). Survivors of this disaster gave testimonies such as "I did not know what a cyclone was like until now," and "I was not able to evacuate timely as I did not know what to do," which proves that lives could have been saved if the right knowledge was distributed in a timely manner to the right audience.

Information was indeed being broadcast by Department of Meteorology and Hydrology on the radio during the landfall of Nargis, but without accompanying visual information, it was not possible to ensure dissemination of the forecasted direction and the size of the cyclone. Therefore, it was not easy for the residents, who had never experienced a major cyclone before, to imagine the impact of the disaster by merely being informed of how low/high the air pressure, small/large the rainfall, the speed of the wind, or low/high the storm surge would be.

As a response to the cyclone, SEEDS Asia and Fed.MES implemented a number of disaster education projects in different ways, with the help of its supporters. Since 2017, it started a project to install weather observation devices in schools, and it was the first time that such initiatives were implemented in Myanmar. Among the six sets of such devices that SEEDS Asia brought to Myanmar, one was installed at Basic Education High School No.2, Labutta, where its teachers check the data acquired through those devices and share it with other members of the school and the local community. A teacher, U Min Thein once said: "The Cyclone Nargis deprived the lives of 80,000 people in Labutta. What I can do in order not to repeat the same tragedy when another cyclone arrives, is to disseminate daily updates as well as lessons learnt from past disasters, so that my students and the community will be able to understand what the weather information is telling us."

This year, annual commemorative events for the cyclone are unfortunately being cancelled due to the COVID-19 crisis. However, the current crisis reminds us all of the importance of timely and appropriate information and knowledge. SEEDS Asia believes that, in order to practice protection of lives from calamities, it is imperative to promote literacy to understand reliable sources of information, and continuous efforts towards accurately interpreting it.

We hope that the souls of the victims of the Cyclone Nargis rest in peace, and wish for a peaceful day for everyone who was affected by this disaster.



Picture 1

A large board displaying a grid of weather observation data. The grid has multiple columns and rows, with handwritten entries in various colors (red, blue, green). The data appears to be recorded daily, covering a period of several months. The columns likely represent different weather parameters such as temperature, humidity, wind speed, and rainfall.

Picture 2

A teacher and students checking the weather data

Recording of regular weather observation



Philippines

Enhancing school-based disaster risk reduction and management

JICA Grassroots Technical Cooperation

Distribution of the School Disaster Risk Reduction and Management Team Operations Guideline

As one of the final outputs of the project funded by JICA called the “Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province”, the “School Disaster Risk Reduction and Management Team Guideline” was distributed to schools and Schools Division Offices, Pilot Schools and local government units.

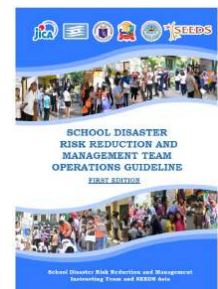
The Guideline was jointly developed by the SDRRM Instructing Team and SEEDS Asia to help local schools to initiate activities on disaster risk reduction and management. With the presence of the Guideline, it will be ensured that schools not involved in the project are also able to access and implement the Guideline. The Guideline, currently in its first edition, is expected to be further enhanced and expanded by the Philippines Department of Education.

The recent COVID-19 crisis has affected some of the project activities (including the National Conference where the Guideline was supposed to be launched). Instead, the SEEDS Asia Cebu Team individually visited schools and other stakeholders to distribute the Guideline.



Photos with recipients of the Guideline

The Operations Guideline is available for download (registration required) on SEEDS Asia’s website (www.seedsasia.org).



Cover of the Operations Guideline



Bangladesh

Safe community development through empowering youth in disaster prone areas

SMBC Volunteer Fund

Continued DRR training for local youth

This project aims to build capacity of local youth to serve as resources for the community and promote awareness-raising of the community on DRR through the trained youth.

On 6th and 7th March, the third and last training sessions for volunteer youth aged between 18 and 35 in collaboration with BRAC University was held, following the first and second training sessions that had taken place in February. The same 26 youth as the previous training in February, who were selected from the fire-prone Korail slum and its adjacent Mohakhali district, continued to participate in the training with seriousness and a proactive attitude.

On the third day, “town watching” was held in Korail slum and Mohakhali district in order for the youth to understand disaster risks in their community. This activity was facilitated by the DRR Leaders of the Mohakhali and Monipuripara societies who were partners of SEEDS Asia’s previous project. Firstly, the participants learned about the purpose and the mechanics of town watching, then walked around a residential area while discussing where fire risks could exist, why narrow roads are dangerous, and where residents can go in order to escape a fire.

On the last day of the training, disaster response, first aid and preparedness at home, as well as the significance of community-based DRR were explained. The Director General of Dhaka North City Corporation’s Department of Disaster Management joined the later part of the meeting, and told the participants that the City is in need of enhanced DRR capacity of the community and the power of the youth.

DRR awareness campaign led by the trained youth

The 26 local youth who successfully completed the four-day training formed groups of five each, planned a schedule and carried out a DRR campaign through home visits to pass on the DRR knowledge learned from the training. When visiting households, the youth imparted the importance of home-based and community-based fire prevention, precautions to be taken in daily life, what to do if a fire occurs, and how to contact the local fire department. The youth also informed each family of the functions of, and how to use, a fire extinguisher, where to buy one and its cost.

The youth had been a little nervous before heading out to the community, but they happily and proudly shared at the gathering after the campaign their experience of being warmly welcomed, seriously listened to, and appreciated by the families they had visited. It is strongly hoped that the youth will continue to play an active role as young DRR leaders in their community.



Town watching



Campaign through home visits



Bangladesh

School-based community disaster risk reduction and city-wide awareness raising

Funded by Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

New project focusing on school-based capacity building for disaster risk reduction

Bangladesh has long been affected by natural disasters such as cyclones and tidal surges due to its geographical features and location. Furthermore, the risk of urban disasters has also been increasing due to the rapid population increase and unplanned urban development in recent years. Although Dhaka North City Corporation (DNCC) has been making efforts to build a resilient city, citizens have not had an opportunity to learn about disaster risk reduction (DRR), so there is a lack of disaster response capacity in the local population. The city also does not have sufficient basic DRR infrastructure for the citizens to use when responding to disasters. Adults in the city have not had a chance to obtain information and knowledge about DRR, and there was growing concern that it would result in exacerbating the risk of disasters. Therefore, they identified the need for immediate attention to improve disaster resilience with self-help and mutual help approaches.

The new project is a continuation of SEEDS Asia's previous community-based DRR project that was implemented for three years from 2016 with DNCC as its counterpart and JICA as its donor. In this phase of the project, through Japan's Ministry of Foreign Affairs' (MoFA) Grant Assistance for Japanese NGO scheme, SEEDS Asia works on school-based capacity building that was not covered in the previous project, intending to create a new model for disaster education and install basic DRR infrastructure at schools as community disaster response hubs, and carry out campaigns to raise DRR awareness throughout the city. As the first year of this new approach, a "Model Academy" in DNCC will be the partner school for establishing disaster education models and installing DRR infrastructure. Media tools for the disaster-awareness campaign planned in the second year will also be prepared in this year.



Model Academy

Visits to Dhaka North City Corporation and DRR Community

On 16th March, SEEDS Asia paid a courtesy call to Dr. Tariq, a superintending engineer of DNCC, who is the key person in this MoFA project, and discussed the outline of the project and requested for continued partnership. He has been very enthusiastic since SEEDS Asia's previous community-based DRR project, and gave us encouraging words promising to cooperate for improved school-based capacity building on DRR in the city.

SEEDS Asia also visited the local DRR communities which had been institutionalized and undergone training for community-based DRR activities in the previous project, and requested for collaboration with the teachers at the Model Academy in the conduct of a town watching activity as part of the teachers training.

SEEDS Asia keeps close contact with the principal of the Model Academy to build a relationship of mutual trust, and continues discussions for the conduct of DRR trainings for the teachers. Due to the outbreak of COVID-19, the project's kick-off workshop and other activities have been postponed, but SEEDS Asia is attempting to keep moving on with what it can do for now.



Japan

Promoting community revitalization through learning exchanges about disaster experiences

Hyogo Voluntary Fund and Tamba City Revitalizing City Promotion

Review and discussion of way forward with partners of Tamba City

On 18th March, a visit was paid to Tamba City to review the activities conducted as “study tours” in the fiscal year 2019 – 2020 with the local partners in Ichijima-cho. The year was full of new experiments where families with kids were invited to various activities that are part of the lifestyles of the people of Tamba, yet are new to the visitors from urban cities, such as rice planting and forest management. The hosts of Ichijima-cho and SEEDS Asia agreed to continue and enhance the activities, hoping that the visitors would learn from what Ichijima-cho could offer.

With funds from the Hyogo Voluntary Plaza operated by the Council of Social Welfare of Hyogo Prefecture, events conducted throughout the year were compiled into a report. Furthermore, with the help of Tamba City Government, SEEDS Asia was able to create a guideline on how to plan and promote events, and communicate. With this guideline, it is expected that the local hosts will be able to operate “study tours” on their own.

Due to COVID-19 outbreak, the hosts and SEEDS Asia were unclear of the immediate prospects of organizing events this year, but it was decided that the connectivity among cities and generations established through the “study tour” initiative would continue.



Report on initiatives in FY2019



Guideline on study tour operations



Headquarters

Disaster recovery projects and dispatch of staff members as lecturers

New member of SEEDS Asia for the Bangladesh Project

Hello, I'm Daisuke Goto, a new member of SEEDS Asia from March 2020.

I used to be a firefighter in Ibaraki prefecture for about six years and a member of Advanced Rescue Team. Heavy rainfall disaster in Kanto and Tohoku regions occurred in September 2015, and our fire department was affected by the disaster. I would like to express and share my feelings and experience of having engaged in on-site response operations during the tragic disaster. I strongly thought that we should certainly never forget about past disasters including Great Hanshin-Awaji Earthquake and Great East Japan Earthquake and Tsunami. What I'm really concerned about is that these disasters will be forgotten, so I should tell my story to the people who don't know those disasters, in order not to let the memory and the struggles of the victims fade away. I would like to localize the concept of DRR in communities, which can lead to reducing losses of lives that should not be lost. I am very grateful to be involved in international cooperation particularly in disaster reduction and mitigation where my firefighting skills and experiences can be utilized, and which I wanted to do from the beginning. In addition, I am very pleased to be able to join SEEDS Asia, which specializes in community-based DRR management.

My main project is “School-based Capacity Building for Enhanced Disaster Risk Reduction in Dhaka North City Corporation”. I will do my utmost to contribute to improving the disaster response capacity of schools and communities in Dhaka North City Corporation. I look forward to working with you all. Thank you.



